

## CES 2018を徹底報告

# 展示会場からスイート展示に至るまでの注目ポイント



世界最大級のコンシューマーテクノロジーの展示会「CES 2018」。過去最大規模の展示スペース、4日間で計86万件以上のツイートを集めた今回も、将来を見据えた多くの見どころが用意されていた。そこで、本誌主催Xデー勉強会+CESツアー事後勉強会で報告した4人の識者によるCES 2018報告のポイントを紹介する。(レポート:高瀬徹朗・本誌レポーター)



本誌CESツアーの目玉はブース訪問

### テレビはフォーマットから価値創造の時代へ

報告:デジタルメディア評論家 麻倉怜士



CES 2018を振り返り、「近未来のAVが分かった」と評するのは、本誌でもお馴染みのデジタルメディア評論家の麻倉怜士氏だ。

「CESは肥大化し、本展示を見ても表面的なことしかわからない恐れがある」(麻倉氏)との考えから、特に各社のスイートルームでの展

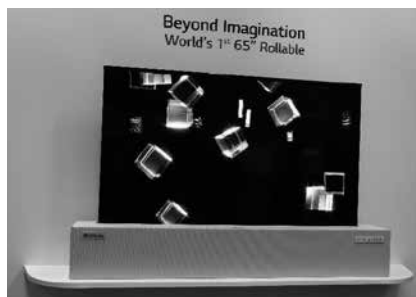
示を中心に報告した。

テレビ関連の話題といえば、2010年以降、3Dやスマートテレビ、4K、HDR、有機ELなどさまざまなテーマが挙がってきたが、麻倉氏は

「フォーマットを中心とした話題はすでに終わり、質的な変化が求められる時代が来た」と話す。そして「解像度は8K、16bitまで進み、量的な拡大は行き着くべきところまでたどりついた。だからこそ、これからは価値の創造。自ら価値をつくっていく時代が来る、と感じられた」と続けた。

その最たる例として「テレビを根底から変える」と評するのが、LGディスプレイが発表した「Rollable 65型有機ELディスプレイ」だ。日本でもNHK放送技術研究所を中心に長く研究が進められてきた「丸められるディスプレイ」である。

「ものすごく薄いのはもちろん、(巻き取りによって)画角が自由に換えられる。画質が良いのはもはや当たり前で、それ以外の付加価値を追求していることがわかる」(麻倉氏)と説明し、「有機ELであることからく画質面の特徴を含め、もっともディレクターの制作意図が伝



LGディスプレイが“世界初”と自慢する有機EL65型ロールアップ式ディスプレイ



LGディスプレイのもう一つの自慢が88型8K有機ELテレビ